

西小倉地域小中一貫校整備検討委員会

第15回 学校部会 次第

日 時 令和5年11月30日(木) 19時
場 所 西小倉中学校 視聴覚室

- 1 開会
- 2 通学路(案)について
- 3 校名等の検討について
- 4 その他
- 5 閉会

【配付資料】

- ・資料①：通学路検討チームの活動状況について
- ・資料②：通学路検討チームでの検討内容
- ・資料③：通学路案
- ・資料④：(仮称)西小倉地域小中一貫校の校名等の検討について

通学路検討チームの活動状況について

チーム	実施日	曜日	活動区分	活動内容
西小倉小チーム	R5. 6. 22	木	通学路検討チーム会議	現地調査実施前に検討会議を実施
	R5. 6. 26	月	通学路現地調査	登校時間帯（7:50～）に、砂田⇒西小倉中学校を 実際に歩いて現地調査
				下校時間帯（14:30～）に、西小倉中学校北門⇒安 田町を実際に歩いて現地調査
R5. 7. 3	月	通学路現地調査	下校時間帯（14時30分～）に、西小倉中学校北門 ⇒南遊田、南遊田⇒南小倉小経由で西小倉中学校 東門にかけて実際に歩いて現地調査	
北小倉小チーム	R5. 6. 13	火	通学路検討チーム 会議	机上での通学路シミュレーションを実施 現地調査日程等、今後のスケジュールを決定
	R5. 6. 19	月	通学路現地調査	下校時間帯（15時～）に、西小倉中学校⇒蓮池を 実際に歩いて現状調査
	R5. 6. 22	木	通学路現地調査	登校時間帯（7時30分～）に、蓮池⇒西小倉中学校 を2コースに分け実際に歩いて現地調査
	R5. 6. 27	火	通学路検討チーム 会議	2回（6/19、6/22）の現地調査を受け、検討会議を 実施
	R5. 7. 6	木	通学路現地調査	登校時間帯（7時40分～）に、西浦⇒西小倉中学校 を基本に実際に歩いて現地調査
	R5. 7. 11	火	通学路検討チーム 会議	現地調査を受け、検討会議を実施
南小倉小チーム	R5. 6. 29	木	通学路検討チーム 会議	現行の通学路の確認、次回会議までに個別に危険 個所等の確認を行うための役割分担の確認
	R5. 7. 13	木	通学路検討チーム 会議	現行の通学路の確認、危険個所等の確認
3チーム合同	R5. 6. 5	月	通学路検討チーム 校長会議	3小学校校長と市教委で、検討スケジュール等の 確認
	R5. 7. 28	金	通学路検討チーム 校長会議	3小学校校長と市教委で、小学校区ごとの検討 チームの活動状況の交流
	R5. 8. 1	火	通学路検討チーム 合同会議①	各検討チームの現地調査結果や検討状況の交流と 通学路案の検討
	R5. 8. 30	水	通学路検討チーム 合同現地確認①	登校時間帯（7:45～）に、西小倉小学校前信号か らフレスコ前交差点を実際に歩いて現地調査
	R5. 8. 31	木	通学路検討チーム 合同現地確認②	下校時間帯（7:30～）に、西小倉中学校北門⇒安 田町を実際に歩いて現地調査
	R5. 9. 5	火	通学路検討チーム 合同会議②	現地調査を受けた検討会議を実施、通学路案の作 成
	R5. 11. 2	木	通学路検討チーム 合同会議③	通学路チーム案に対する関係機関の見解確認と通 学路案の検討



通学路検討チームでの検討内容

第15回 西小倉地域小中一貫校
整備検討委員会【学校部会】資料②

学校部会で報告された安全対策が必要と考えられる箇所と必要な安全対策等

地図場所	地図内番号	場所詳細	必要と考える安全対策等
A		西陣書店	西陣書店横から道路を横断し南進するための、横断歩道の設置および車両が減速するようなハンプ等の設置
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
B	11	Eの一筋 東側 横断歩道の設置	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

地図場所	地図内番号	場所詳細	必要と考える安全対策等
C	5-6	市道小倉安田線南側	(市道小倉安田線) 南側親水緑道の、水の危険・見通しの悪さ等への対策
	5-6	市道小倉安田線北側	グリーンラインが切れている箇所への対応
D	6-13	水路東側の桜並木	カラー化(グリーンライン)及び、ごみ集積場の位置の移動
E	13	犬専門店角	南北は道幅が急に変わり、東西は城南菱創高校の通学路であり時間帯によっては自転車、歩行者多いため、横断歩道の設置及び道路の拡幅
			
E'		犬専門店～山際通	グリーンラインの設置を求めたい
F		西小倉小跡地内	西小倉小学校敷地内を通行（敷地東側の幅数mを確保） 【通行できない場合】 西小倉保育所前の歩道の拡幅

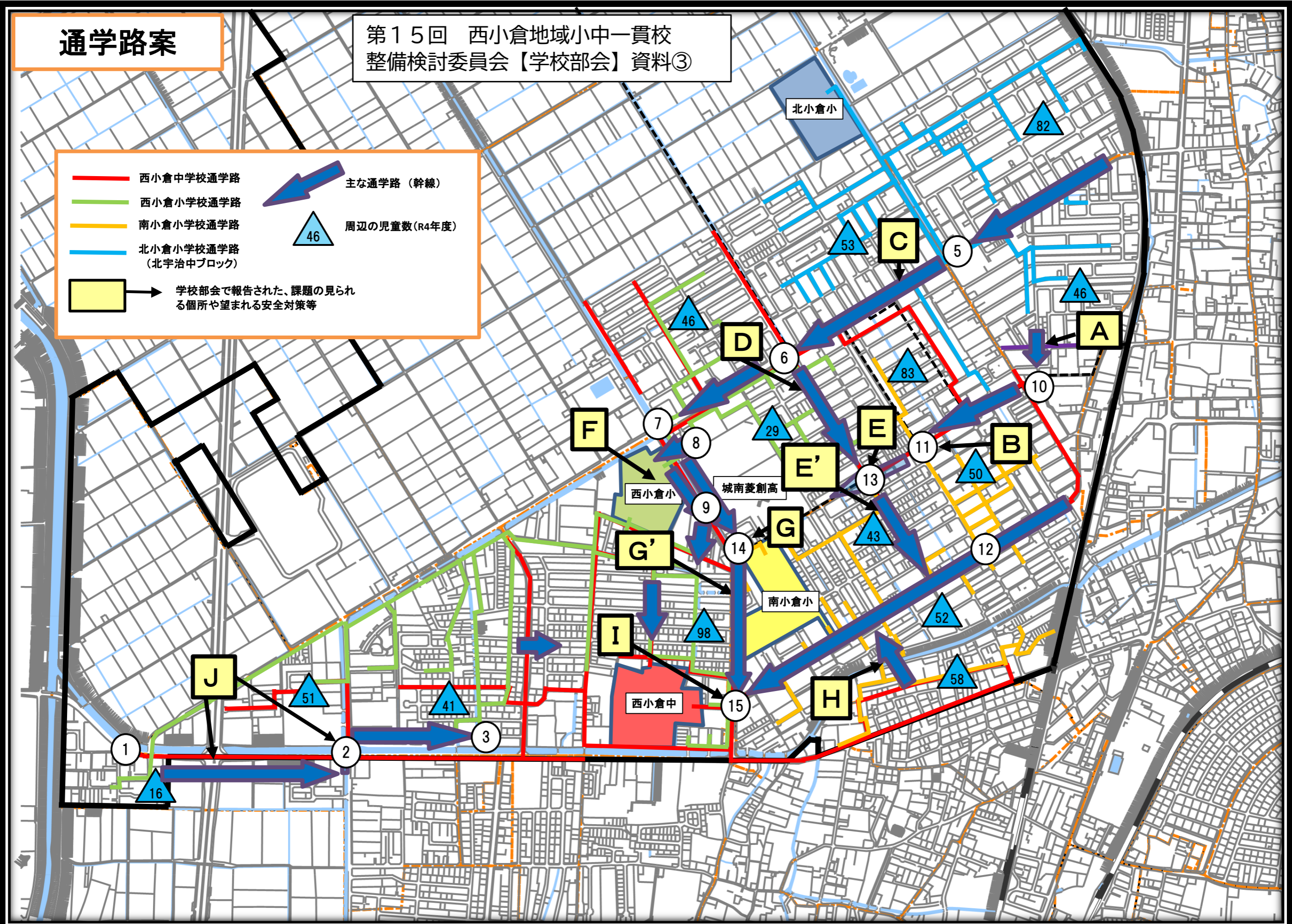
地図 場所	地図内 番号	場所詳細	必要と考える安全対策等
G	14	フレスコ 前	<p>点滅信号の設置や交通指導員配置等安全対策</p> 
G'	14-15	<p>フレスコ前～ 正門前の水路 東側遊歩道</p> <p>フレスコから 一本南の橋</p>	<p>歩行者と自転車を分離するよう整備を求めたい</p> <p>横断歩道と信号機の設置</p> 
H		山際西山 連絡橋	<p>山際西山連絡橋の南詰の急な坂、及び、北詰東側の道路が見通しの悪いカーブで自転車との衝突のおそれがあり、人目も少ないため、防犯カメラの設置と山際西山連絡橋南詰の法面の補修(手前に傾いている)</p>

地図 場所	地図内 番号	場所詳細	必要と考える安全対策等
I	15	正門東	<p data-bbox="459 260 1962 292">現状では横断者が滞留するスペースがないため、信号を設置するための南東側のスペースを滞留スペース等に活用できるよう改修</p> <div data-bbox="389 368 1106 906"> </div> <div data-bbox="1155 368 1872 906"> </div>
J	1-2	宇治安田 交差点	6車線の交通量が非常に多いため、交通指導員等の人的配置
	1-2	府道八幡宇 治線	浮面交差点で横断。交通指導員等の人的配置

通学路案

第15回 西小倉地域小中一貫校
整備検討委員会【学校部会】資料③

- 西小倉中学校通学路
 - 西小倉小学校通学路
 - 南小倉小学校通学路
 - 北小倉小学校通学路
(北宇治中ブロック)
- ➔ 主な通学路 (幹線)
▲ 46 周辺の児童数 (R4年度)
 学校部会で報告された、課題の見られる個所や望まれる安全対策等



(仮称) 西小倉地域小中一貫校の校名等の検討について

○統合校の例 ※事例②～⑤については、聞き取りやHP等調べによる

①宇治黄檗学園（宇治市）

開校時期	平成24年4月
施設区分	施設一体型小中一貫校
統合等の経過	宇治小学校敷地内に黄檗中学校を新規で設置
校名について	公募 ⇒ 市民による1次選考 ⇒ 選考委員会で決定 ・小中一貫校の愛称 ⇒ 宇治黄檗学園に決定 ・新設する中学校の校名 ⇒ 黄檗中学校に決定
校章・校歌について	宇治小学校の校章・校歌を学園章・小中学校の校歌にした。

②さつき学園（大阪府守口市）

開校時期	平成28年4月
施設区分	義務教育学校
統合等の経過	滝井小学校、春日小学校と第三中学校の統合
校名について	公募 ⇒ 統合校連絡会で選考 ・小中一貫校の愛称 ⇒ さつき学園 ・新設する小・中学校の校名 ⇒ さつき小学校、さつき中学校 最終的に、校名はさつき学園に、決定。
校章・校歌について	公募 ⇒ 統合校連絡会で選考

③向島秀蓮小中学校（京都市）

開校時期	平成31年4月
施設区分	義務教育学校
統合等の経過	向島南小学校、向島二の丸小学校、二の丸北小学校と向島中学校の統合
校名について	公募 ⇒ 創設協議会で校名候補を決定 ・校名 ⇒ 向島秀蓮小中学校に決定
校章・校歌について	校章・校歌：専門家に依頼

④ならやま小中学校（奈良市）

開校時期	令和4年4月
施設区分	施設一体型小中一貫校
統合等の経過	右京小学校、神功小学校と平城西中学校の統合
校名について	公募 ⇒ 開校準備委員会で3候補に絞る ⇒ 児童生徒・保護者への3択アンケートで決定 ・小中一貫校の愛称 ⇒ならやま小中学校に決定 ・新設する小・中学校の校名 ⇒ならやま小学校、ならやま中学校に決定
校章・校歌について	校章・校歌：公募 ⇒ 開校準備委員会で決定

⑤庄内さくら学園（大阪府豊中市）


開校時期	令和5年4月
施設区分	義務教育学校
統合等の経過	庄内小学校、野田小学校、島田小学校と第六中学校、第十中学校の統合
校名について	公募 ⇒ 教育委員会にて検討・決定 ・校名 ⇒庄内さくら学園に決定
校章・校歌について	校章：3小学校・2中学校の子どもたちからアイデア募集 ⇒ アイデアをもとにデザイン化、アンケートを実施 ⇒ 決定 校歌：大阪音楽大学講師に作成依頼

※その他、校名について統合前の小中学校名を使う例や、校章・校歌について、AIで作成する例もある。


○西小倉地域の小中学校について

①西小倉小学校


開校時期	昭和44年4月
沿革	宇治市10番目の小学校として、17学級637人で小倉小学校から分離開校しました。 最大で昭和52年度に最大33学級、1,377人になりました。

校章・校歌	 <p style="text-align: right;">西小倉小学校校歌</p> <p style="text-align: right;">作詞 森田勝治 作曲 網代英三</p> <p>一 今小倉野に朝がきて 宇治の川霧はれるとき 共になかよく手をとって みんないっしょにはげみ行く ああ 楽しい学校 西小倉小学校</p> <p>二 巨椋の昔あともなく 進む文化にさきがけて 心をみがき身をきたえ 意気と力のわくところ ああ 栄ある学校 西小倉小学校</p> <p>三 見わたす四方の山なみに 自然のおしえ身にしてみても 高鳴るのぞみ育てつつ 大きく強く伸びて行く ああ 心のふるさと 西小倉小学校</p>
-------	---


②北小倉小学校

開校時期	昭和48年4月
沿革	<p>宇治市15番目の小学校として、12学級435人で西小倉小学校から分離開校しました。</p> <p>最大で昭和52年度に31学級、1,258人になりました。</p>
校章・校歌	 <p style="text-align: right;">北小倉小学校校歌</p> <p style="text-align: right;">作詞 小森 香子 作曲 大西 逸</p> <p>一 みんなで 校庭をうらめ あしたの空に どのくたろう 世界一周 歴史をうらめ 巨椋ヶ池の 歴史をうらめ みんなできずく 新しい町 植えよう 植えよう 若木を のびよう のびよう いっしょに やがて大きな 緑の木になろう</p> <p>二 みんなで 歌を呼ぶたら あしたの夢を あわせたら みんなの力を あわせたら すてきな学校 できるだらう 北小倉の 仲間がみんな いつも仲良し がんばる子ども 植えよう 植えよう 若木を のびよう のびよう いっしょに やがて大きな 緑の木になろう</p>

③南小倉小学校

開校時期	昭和53年4月
沿革	<p>宇治市21番目の小学校として、20学級834人で西小倉小学校・北小倉小学校から分離開校しました。</p> <p>最大で昭和55年度に30学級、56年度に1,043人になりました。</p>
校章・校歌	 <p style="text-align: right;">南小倉小学校校歌</p> <p style="text-align: right;">作詞 山本 明子 作曲 南小倉小学校職員 編曲 亀井 武雄</p> <p>一 見あげよう この巨椋野の 広い空 明るい日ざし ぼくを 包み わたしを はぐくむ 太陽の 光りあふれる 南、南小倉小学校</p> <p>二 見はるかす 宇治の山なみ 宇治川の 清き流れよ ぼくを 見守り わたしを はげます ふるさとの 恵み豊かな 南、南小倉小学校</p> <p>三 見つめあう 友の瞳に 信じあう 希望の光り みんなの 学び みんなの 手を組み 新しい 歴史を拓く 南、南小倉小学校</p>

④西小倉中学校

開校時期	昭和53年4月
沿革	宇治市7番目の中学校として、9学級375人で北宇治中学校から分離開校しました。 最大で昭和60年度に24学級、1,003人になりました。
校章・校歌	 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; padding: 0 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p style="text-align: center;">三</p> <p>宇治の川瀬の水車に たゆまぬ努力の一筋に 露隔てなき友情を 誠の道へ拓きゆく あわれらの誇り 西小倉</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p style="text-align: center;">二</p> <p>巨椋の森の寄生木に 葦刈る池をしのびつつ 未来に生きるいしづえを 心豊かに逞しく 力を尽くし学びゆく あわれらの理想 西小倉</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p style="text-align: center;">一</p> <p>四方の山なみ美わしく 恵み溢れるふるさとに 集いし友よ健やかに 若き血潮ぞ意気高く 明るい日々を励みゆく あわれらの学び舎 西小倉</p> </div> <div style="width: 15%; text-align: right;"> <p>作詞 只川治男 作曲 青柳五一</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">西小倉中学校校歌</p> </div> </div>

○巨椋池の歴史について

- 巨椋池（おぐらいけ）は、京都府の南部、現在の京都市伏見区・宇治市・久世郡久御山町にまたがっていた池。大きさからは、池よりも「湖」と呼ぶ方がふさわしいかもしれない。万葉集では「巨椋入江」、江戸時代の古地図などでは「大池」などの記載がある。巨椋池という名称は、近代に入ってから使われ始めた。
- 豊臣秀吉による土木工事などにより時代によって姿を変えていき、1933年（昭和8年）から1941年（昭和16年）にかけて行われた干拓事業によって農地となった。干拓前の巨椋池は周囲約16キロメートル、水域面積約8平方キロメートルで、当時京都府で最大の面積を持つ淡水湖であった。
- 蓮の名所であり、夏は蓮見で盂蘭盆会前後が見ごろで、船や観覧席も設けられた。
- 鳥類にとって自然環境に恵まれており、ヒバリ、サギ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、ユリカモメなど63種以上生息していた。
- 琵琶湖・淀川水系であり、魚の種類が豊富で、他の水系では平均35種だが、巨椋池は43種生息していた（フナ、ヒガイ、ドジョウ、ナマズなど）。貝類は琵琶湖に次ぎ国内で2番目に種類が多く、ドブガイ、シジミなど36種生息していた。
- 巨椋池の漁業は、東一口村（現久御山町）、弾正町（現京都市伏見区）、小倉村（現宇治市）の3地域が、池の沿岸を除いて独占的な漁業の権利を有した。この権利は干拓まで続いた。漁業では、魩漁（えり漁、魚を誘い込んで逃げ場をなくして捕獲する漁法）をはじめとして浸木漁、網漁などさまざまな漁法が用いられた。
- 伊勢田町砂田の北西道路、西小倉小学校の南側道路が巨椋池の湖岸線。
- 「遊田」の由来は、名木川が巨椋池にそそぐ河口にできた三角州であり、自然に堆積した砂礫による広大な野原で、農耕に適さない遊び田のイメージから。しかし、この場所は良質の萱が繁茂していた。

西小倉地域及び地域内小・中学校の変遷について

学校改革推進課作成

	巨椋池／西小倉地域	西小倉小	北小倉小	南小倉小	西小倉中
	国内有数の自然豊かな湖（周辺の人々に恵み） 〔東西4km 南北3km 周囲16km 約800ha〕				
～中世	直接宇治川が流入し淀川へ	3小1中の取組沿革については各校が発行する要覧等の記載内容をもとにしています			
近世初頭	豊臣秀吉が土木工事 横島堤、小倉堤など3本の堤が南北に縦断⇒4つの水域（池）に分割				
近代	淀川流域洪水を防ぐ工事 ⇒新流路が作られる（藻の減少、浮草の繁殖で魚介類の生育環境が悪化し、数量が減少）				
明治6年（1873年）			小倉小開校		
明治22年（1889年）	町村制施行により小倉村・伊勢田村・安田村が合併し久世郡小倉村が成立				
大正4年（1915年）	ムジナモ（食虫植物）天然記念物指定⇒その後絶滅し、昭和15年指定解除に				
昭和8年（1933年）6月	巨椋池干拓工事起工式				
昭和16年（1941年）	巨椋池での漁業（コイ・フナ・ウナギ・ナマズ等）⇒この年まで行われる				
昭和22年（1947年）	小倉・大久保村組合立北久世中設立⇒翌23年南久世中と合併し、久世郡組合立久世中学校設立				北久世中開校
昭和26年（1951年）	小倉村が久世郡宇治町・横島村・大久保村及び宇治郡東宇治町と合併し宇治市が成立				廃校
昭和28年（1953年）	南山城水害／台風13号による風水害				西宇治中開校
昭和31年（1956年）					
昭和35年（1960年）	地域人口 165人				
昭和40年（1965年）	地域人口 1,700人と5年で10倍に（西浦・南浦・南堀池から住宅開発）	分離			
昭和44年（1969年）	急激な増加	開校（17学級 637人） 〔小倉小より分離〕 環境緑化努力校（府教委指定）			
昭和45年（1970年）	地域人口 10,300人と10年で60倍以上に（蓮池・堀池、山際等で住宅開発）				分離
昭和47年（1972年）	北宇治中開校（11学級 469人）〔宇治中・西宇治中より分離〕				北宇治中開校
昭和48年（1973年）	浮面地域が伊勢田小学校区に編入		開校（12学級 435人） 〔西小倉小より分離〕	山際・南浦全地域が南小倉小学校区に編入	
昭和49年（1974年）	伊勢田小開校（19学級 704人）〔西小倉小・小倉小より分離〕				
昭和52年（1977年）		最大学級数（33学級） 最大児童数（1,377人）	最大学級数（31学級） 最大児童数（1,258人）	分離	分離
昭和53年（1978年）				開校（20学級 834人） ※1～5年生のみ在籍 〔西小倉小・北小倉小より分離〕	開校（9学級 375人） 〔北宇治中より分離〕
昭和55年（1980年）				最大学級数（30学級）	
昭和56年（1981年）				最大児童数（1,043人）	
昭和57年（1982年）					生徒指導研究推進校 （57・58年文部科学省・府教委委嘱）
昭和60年（1985年）	地域人口 22,000人〔地域人口のピーク〕 （住宅地は西へ、北へ、南へ 砂田・遊田にも大規模宅地開発）				最大学級数（24学級） 最大生徒数（1,003人）
平成3年（1991年）		教育推進校（図画工作科） （市教委指定）			
平成4年（1992年）				水辺の暮らし資料館開室	情報教育研究指定校 （4・5府教委・市教委指定）
平成5年（1993年）		福祉教育推進校（市教委指定）		京都府学校給食努力校受賞	
平成6年（1994年）				社会科・生活科研究指定校 （市教委指定）	
平成7年（1995年）				福祉教育実践校（市教委指定）	
平成9年（1997年）			交通安全優良校受賞	環境教育実践校（市教委指定）	
平成10年（1998年）		教育研究校（社会）（10・11市教委指定） 福祉教育実践校（市教委指定） 社会福祉教育実践校（市教委指定） 社会福祉協力校（10～12市教委指定） ミ二巨椋池（観察池）整備	情報教育研究指定校 （10・11市教委指定）		
平成11年（1999年）				福祉教育実践校（市教委指定）	
平成13年（2001年）				情報教育研究協力校 （13・14府小学校教育研究会） LDに対する指導体制の充実事業研究協力校 （13・14府教委指定）	
平成14年（2002年）					ピオトーブ推進モデル校 （市教委指定）
平成15年（2003年）					環境教育実践モデル事業校 （15・16・17文部科学省指定）
平成16年（2004年）			交通安全優良校受賞	地域ふれあい体験活動推進校 （16・17府教委指定） 食に関する指導の実践モデル校指定 ボランティア活動普及事業指定 （16～18府教委指定）	地域ふれあい体験活動推進校 （16・17府教委指定）
平成18年（2006年）			「京の子ども、夢・未来校」 「やましろ未来っ子」 ジョイントアップ研究開発校 （18・19府教委指定）		uji学びの森推進事業指定校 （18・19・20市教委指定）
平成21年（2009年）			学校版環境ISO認定校指定		
平成25年（2013年）				家庭学習促進実践研究事業 （25・26市教委指定）	
平成26年（2014年）				学校版環境ISO認定校指定	
令和3年（2021年）		研究協力校（体育） （3～5府小学校教育研究会指定）			